

友の会 NEWS

The National Museum of Modern Art, Kyoto
京都国立近代美術館

March 2016 No. 48

開催中の企画展

文化勲章受章記念 志村ふくみ^{ぼろ}—母衣への回帰—

～3月21日(月・祝)まで



志村ふくみ《紅襲(桜かさね)》1976年、滋賀県立近代美術館蔵

3月1日(火)より後期展示が始まりました。30点の作品が入れ替わり、桜色が美しい《紅襲(桜かさね)》や源氏物語をインスピレーション源とした《若紫》などを新たに展示しています。前期・後期とあわせてご覧いただくと、志村ふくみ氏の60年におよぶ制作の軌跡をより詳しく知ることができます。母・小野豊が残した紬糸を使って織られた最新作《母衣曼荼羅》(2016年)や、今回の展覧会のために制作された12色の無地着物は引き続きご覧いただけます。

会場できりりとした目を引くのが《光の^{みち}経》というインスタレーション。織り機に張られた経糸の美しさから生まれた作品です。43色の色(糸は全部で219本)がぴんと張られ、見る角度によって色合いや雰囲気微妙に変わります。ぜひ会場でご覧ください。



会場の様子(前期展示)

イベント報告

キッズプログラム 鑑賞ツアー『これはどんな色?』を開催しました

2月20日と3月12日に、小学生を対象に、色や模様に着目してイメージを膨らませながら着物の魅力を味わう鑑賞ツアーを開催しました。2日間あわせて小学生21名とその保護者の方にご参加いただきました。

織りや染めについて詳しく触れなかったにもかかわらず、子どもたちは柔軟な発想で、「月に照らされた湖」、「ゆらゆら揺れている水面」、「川に垂れかかる柳の様子」など、着物があらかず光景を自由に想像して、思い思いに語ってくれました。

当日の詳細な様子は、当館ホームページ「学習支援」のページからご覧いただけます。



当日の様子(2月20日)

次回企画展

オーダーメイド：それぞれの展覧会

4月2日(土)～5月22日(日)まで

Order & Reorder: Curate Your Own Exhibition

美術館で展示された作品は、それが置かれる空間やともに並ぶ別の作品との思いがけない出会いを通して、さまざまな意味を生みだし、鑑賞者を豊かな解釈の世界へと誘ってくれます。「オーダーメイド：それぞれの展覧会」は、鑑賞者が順路やテーマを選択しながら鑑賞することで、展覧会の見え方が変化するプログラムです。この展覧会では、当館のコレクションを使って、作品同士がどのように関係づけられ、作品の〈配列=オーダー〉がどのように決定されるのかを体験を通して考えます。

「人生は選択の連続」、観る人それぞれが自分なりの物語を見つけながら展覧会(あるいはその見方)をオーダーメイドするために、美術館に足を踏み入れたところからゲームが始まります。

会期中の関連イベントは、当館ホームページからご覧ください。

<http://www.momak.go.jp/Japanese/exhibitionArchive/2016/412.html>



展覧会ポスター

友の会特別解説会

日時：4月17日(日)午前11時～12時

集合場所：当館1階ロビー

※当日は開始5分前までにお集まりください

募集人数：先着20名

解説者：牧口千夏(当館主任研究員)

申し込み先：京都国立近代美術館 総務係

電話：075-761-4114(月曜から金曜まで、午前10時～午後5時)

メール：info@ma7.momak.go.jp

(件名は「友の会特別解説会申し込み」としてください。)

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

コレクション・ギャラリー 平成28年度 第1回 コレクション展

前期:3月24日(木)～4月24日(日)
後期:4月26日(火)～5月29日(日)

来年度第1回目のコレクション展は、桜やお花見の光景を描いた日本画、薔薇をテーマとした西洋画など、花をテーマとした作品が多く並びます。美術館でお花見を楽しませてはいかがでしょうか？

日本画のセクションでは、伊藤^{ほくだい}柏台(1896-1932)の生誕120年を記念して、当館のコレクションから選りすぐりの作品を展示します。京都出身の柏台は、レンブラントやデューラーの影響を受け、重厚な雰囲気漂う独特の作品を制作しました。さらに、太秦、嵯峨、宇治など京都の郊外を鉛筆で捉えた素描も数多く描いています。柏台の作品をまとめてご覧いただけるこの機会を、どうぞお見逃しなく。工芸のセクションでは、京都を中心に活躍し、染織界の近代化に大きく貢献した小合友之助(1898-1966)の没後50年を記念した特集展示を行います。

さらにコレクション・ギャラリー中央のスペースでは、「○△□」と題して、菅井汲《12気筒》など、幾何学模様によって構成された現代絵画を展示します。スケール感や鮮やかな色彩を、ぜひ作品と向き合ってみてください。



伊藤柏台《卓上静物》1921年、当館蔵

主なテーマ

薔薇を描く 生誕120年記念 伊藤柏台特集 春の日本画 木と竹の表情
没後50年 小合友之助の染色 ○△□ (まる・さんかく・しかく)



菅井汲《12気筒》1972年、当館蔵



NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2016
特集：映画監督 三隅研次

三隅研次(1921-1975)は、時代劇に大胆な表現を導入し、極限的な状況における愛と死を描き続けることによって戦後の日本映画に新風を送りこんだ監督です。今回のMoMAK Filmsでは、東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)で開催され好評を博した上映企画の中から、三隅監督の劇映画の代表作とテレビドラマ「必殺」シリーズを紹介します。また5月1日には、「必殺」シリーズにカメラマンとして携わった石原興監督によるトークを開催します。

4月30日(土)

午後2時～3時39分 『婦系図』1962年

出演：市川雷蔵、万里昌代、船越英二、三條魔子 ほか

午後4時～5時29分 『桜の代紋』1973年

出演：松尾嘉代、関口宏、渡辺文雄、大滝秀治、小林昭二 ほか

5月1日(日) 午後2時～3時34分

『必殺仕掛人 秋風二人旅』1973年

『必殺仕掛人 地獄花』1972年

出演：緒形拳、田村高廣、金井由美、山村聡 ほか

石原興 監督 アフタートーク

日程：5月1日(日) 午後3時40分～4時30分

場所：当館講堂

聞き手：富田美香(NFC主任研究員)

1プログラム：520円(当日券のみ)

チケットは会場入口にて販売

会場：当館講堂

各回入替制・先着100席

イベント報告

「志村ふくみ展」友の会特別解説会を開催しました(2月10日(水))

今回は始めに講堂でレクチャーを行い、志村ふくみ氏の経歴や“母衣への回帰”というタイトルが付けられた理由についてお話しました。また、植物染料からさまざまな色を染め出していることや、琵琶湖、文学、源氏物語などからインスピレーションを受けた作品を制作していることについても紹介しました。

続いて展示室では、担当者による解説を聞きながら作品を鑑賞しました。12色の無地着物の展示を試行錯誤したことや、《光の経》(糸のインスタレーション作品)への照明の当て方を特に工夫したことなど、担当者ならではのエピソードを聞くことができました。

今回は閉館後の開催ということで、ひとつひとつの作品とゆっくり向き合うことができました。また、参加された方の中に染めや織りに詳しい方がおられたため、参加者間での会話も盛んに行われました。解説会を通して会員の皆さん同士の交流も深まればと思います。



解説会の様子

京都国立近代美術館賛助会員・一般会員
当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

